

# 歴史上の人物と 蟹江の名所・文化遺産

---

蟹江町内には、歴史上の人物と関係ある  
名所や文化遺産がいくつもあります。

そのうちの主なものを紹介します。

蟹江町歴史民俗資料館

安倍晴明(あべのせいめい) 921-1005

平安時代の陰陽師。出身は大阪とも奈良ともいわれ、母親が狐だったという説もある。占いやお祓い、雨乞い等の実績が高く評価された。

## ■ 晴明塚(蟹江新町 上之割)

地蔵寺の西の住宅地にあります。

陰陽師である安倍晴明が火伏の祈禱を行った地とされ、祈禱に使ったほら貝などが埋まっていると伝わる。昔は小高い丘にイチジクの木がうっそうとしていたところでした。

また、蟹江新町区の氏神である日吉神社の社紋は晴明神社と同じ五芒星(ごぼうせい)が使われています。



源義朝(みなもとのよしとも) 1123  
-1160

平安時代の武士。源頼朝、義経、範頼らの父。源氏島に立ち寄った後、知多の野間で最期をとげた。

### ■源氏塚(学戸七丁目)

西尾張中央道「源氏島」交差点南東にある源氏塚公園内にあります。旧住所は西之森源氏島でした。

平治の乱(平治元年・1159)に破れた源義朝が東方へ逃げる途中立ち寄ったとされています。当時周辺は海で小島が点々としており、義朝は船で知多に向かう途中でした。

この出来事が地名「源氏島」「源氏」の由来になっています。



木曾義仲(きそよしなか) 1154-1184

本名は源義仲。平安時代の武士。

巴御前(ともえごぜん) 生没年不詳

木曾義仲に仕えた女武士として知られる。



### ■龍照院(須成 門屋敷上)

行基菩薩によって天平5年(733)創建されたとされる真言宗智山派の寺院。木曾義仲により再興されたとされ、本尊の十一面観音(重文)もその際に造像されたともいわれています。

境内の大日堂にある大日如来坐像(町文化財)は、義仲の没後に巴御前が安置したと伝えられています。



**親鸞(しんらん) 1173-1262**

浄土真宗の宗祖。9歳で出家、比叡山で修業。関東で念仏の教えを伝える活動をし、晩年は京都で過ごした。



### ■親鸞聖人腰掛石(宝二丁目)

忠霊塔の東にあります。

文暦2年(1235)ごろ親鸞が関東から京都に向かう途中にこの地に寄ったとされ、周辺に住む漁師たちに野天説法をした後、ここにあった石に腰かけて休憩したと伝えられています。

看板や石像が設置され、真宗門徒の聖地となっています。



**織田信長**(おだのぶなが) 1534－1582

戦国時代の武士。勝幡城(愛西市)生まれという説がある。天正10年(1582)本能寺の変で没。

### ■伝 信長街道(須成)

須成 善敬寺から東神明社までの南北に走る道。

若き信長が清洲城を攻落する際に軍勢が通ったと伝えられ、地元では「信長道(のぶながみち)」などと言われてきました。昔ながらの細い道で、清洲まで続いていました。

地面に「伝 信長街道」の文字と織田木瓜の紋が表示され、案内看板も設置されています。



豊臣秀吉(とよとみひでよし)

1536－1598

戦国時代の武士。信長の没後天下人となる。

### ■須成龍照院のイチヨウ(須成門屋敷上)

龍照院の庫裏の西にあります。

乳嘴状の枝張りのある古木で樹齢400年以上とされ、町の天然記念物となっています。

「太閤お手植えの銀杏」として伝承され、信仰の対象にもなっている。



徳川家康(とくがわいえやす) 1543-1616  
江戸幕府初代将軍。

## ■蟹江城址(城一丁目)

歴史民俗資料館(産業文化会館)南西の蟹江城址公園内に石碑があり、さらに西に本丸井戸が残っています。

戦国時代、清州城と長島城の中間となる場所として、戦略上重要な存在でした。

天正12年(1584)秀吉軍と織田・徳川連合軍が争った小牧長久手の戦いの一部として激しい戦闘があり、「蟹江合戦」として後世に伝えられています。蟹江城の窮状を知った家康が清洲から駆け付け、勝利したとされています。

蟹江合戦の翌年廃城となっています。





佐野七五三之助(さのしめのすけ) 1834－1867

須成出身の新選組隊士。

### ■佐野七五三之助墓所(須成 奥ノ坊)

富吉建速神社・八剣社の西方にあります。

佐野七五三之助は、須成村の神職の息子として生まれました。尊王攘夷を志し、家を出て江戸へ向かい北辰一刀流を学び、横浜で居留地の警備をした後、新選組の隊士となり、京都へ向かった。しかし、新選組総員の幕臣取立に反発し、脱退を試みたが聞き入れられず、仲間三人とともに自刃した。京都で葬儀があり戒光寺に墓があるが、故郷でも葬儀が行われ墓が建てられた。



渋沢栄一(しぶさわえいいち) 1840-1931

埼玉県出身。明治・大正期の実業家、近代日本経済の父。2024年から一万円札の顔に。

## ■神田氏家系碑(須成 下之割南)

善敬寺の墓地の蟹江川沿いに石碑があります。

須成出身で、明治から大正にかけて金融界で活躍し渋沢栄一と深い交流があった神田鐳蔵(1872-1934)が、大正4年(1915)に故郷や親族への感謝を込めて建てたものです。

渋沢栄一が石碑の文字を書き、除幕式の際には主賓としてこの地を訪れ、大変な歓迎を受けました。

